

きべりはむし

第12巻 第2号

目 次

兵庫県のコメツキムシ(2)	岸井 尚	36
兵庫県ゼフィルス採卵紀行(2)	勝屋 潤	49
宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その3)	新家 勝	53
兵庫県下で得た甲虫三種の記録	伊藤 武	56
神戸市内産ベニボタル三種について	高橋 寿郎	57
宝塚市内におけるノコギリカメムシの採集記録	新家 勝	59
神戸ポートアイランド南公園のアオドウガネ	高橋 寿郎	60
ソボリンゴカミキリの六甲山系における採集例	芦田 久	61
雑 録		62
会員異動		63

兵 庫 昆 虫 同 好 会

1984年11月

兵庫県のコメツキムシ(2)

岸 井 尚

Subfamily ELATERINAE Leach

コメツキ 亜科 (2)

Tribe Physorhinini Candèze

74. *Anchastus aquilis aquilis* Candèze, 1873

クリイロアシプトコメツキ

Miwa (1934)。神戸市から唯一の記録があるのみであるが、近隣地域では稀ならず灯火に飛来するものが得られている。

Tribe Adrastini Candèze

75. *Lanecarus palustris* (Lewis, 1894)

ニセムナボソコメツキ

Miwa (1934)。早春河原や海岸砂礫地で得られるが多くない。約50年前の三輪博士による報告が本県下で唯一の記録例であるが、筆者の所蔵標本中に下記のものがあるので記録しておく。
高砂浜, 3 exs. (23. 1V, 1954, 石田 裕採; 30. V, 1954, 石田 裕採)。

76. *Silesis musculus musculus* Candèze, 1873

クチプトコメツキ

妙見山, 1ex. (30. VII, 1982), 烏原, 1ex. (30. VI, 1983), 鳥羽, 1ex. (5. VII, 1975), 砥ノ峯, 2exs. (15. VII, 1977; 6. VIII, 1977), 大河内, 1ex. (8. VI, 1977), 水谷, 1ex. (17. VII, 1981), 音水, 2exs. (20. VII, 1969), 坂ノ谷, 3exs. (22. VII, 1979)。岸井 (1963), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975b), 高橋 寿郎 (1978), 仲田 (1982)。

77. *Glyphonyx illepidus* Candèze, 1873

クチボソコメツキ

音水, 3exs. (20. VII, 1969; 15. VII, 1973)。山本・高橋 (1962), 奥谷 (1974)。

78. *G. bicolor bicolor* Candèze, 1893

キバネクチボソコメツキ

妙見山, 2exs. (30. VII, 1982), 砥ノ峯, 1ex. (8. VII, 1977), 音水, 1ex. (30. VII, 1972)。
山本・高橋 (1962), 岸井 (1963), 奥谷 (1974), 仲田 (1982)。

Tribe Agriotini Champion

79. *Ectinoides insignitus* (Lewis, 1894)

ヨツキボソコメツキ

三濃山, 4exs. (7. V, 1972; 18. V, 1974), 川上, 1ex. (14. V, 1977)。山本 (1958),
高橋 匡 (1975b, 1982), 仲田 (1978, 1982)。

80. *Ectinus sepes* (Lewis, 1879)

キアシムナボソコメツキ

坂ノ谷, 1ex. (9. VI, 1973)。一般に西南日本に分布域をもつが, 岸井 (1983) が指摘したよ
うにそんなに多い種でない。本県下からは未記録であった。

81. *E. exulatus* (Candèze, 1873)

ムナボソコメツキ

奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975a, 1982), 仲田 (1978, 1982)。筆者 (1983) が述べ
たように本種は本州西南地域から四国・九州に分布域をもつ種のように, *sericeus* の暗色型と
極めてよく似ている。*sericeus* 暗色型は奈良・和歌山両県山岳地帯に屢々みられるが, 近畿北
部地域及び中国地方のものではまだ検していないので, 上記報告例はすべて間違いないと思うが,
再検討の余地はあるように思われる。

82. *E. sericeus sericeus* (Candèze, 1878)

カバイロコメツキ

烏原, 3exs. (9. V, 1981; 23. V, 1981; 5. V, 1982), 三濃山, 1ex. (18. V, 1974),
赤西, 1ex. (27. X, 1979), 音水, 1ex. (11. V, 1972)。辻 (1963), 西脇 (1965),
辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975a, 1982), 仲田 (1982)。すべて典
型的色彩をもつもののみで, 西南日本に分布する暗色型はみられない。

83. *E. longicollis* (Lewis, 1894)

ムネナガカバイロコメツキ

岸井(1963), 奥谷(1974), 高橋 匡(1982)。記録としては鳥取・徳島・熊本からのものもあるが, 一般的には近畿北部山岳地帯までが主分布域で個体数は中部山岳地帯に比し急減する。

84. *Agriotes(Agriotes) ogurae ogurae* Lewis, 1894

オグラカバイロコメツキ

有本(1979)。伊丹市内からの唯一の記録があるのみである。本種は別亜種が4種報告されており, それらとの関係については産地に最も近い淀川水系に産する原名亜種に最も近い。なお, Gurjeva(1972)はソ連に広く分布する *A. subvittatus* Motschulsky, 1859のシノニムとしているが, この扱いについては少々疑問点があるので, こゝでは従来通りしておく。

85. *Dalopius exilis* Kishii, 1956

ナガナカグロヒメコメツキ

高橋 匡(1975b, 1982)。兵庫県北部山岳地帯で稀に得られ, 中国地方, 九州からの記録は記録はない。なお, 奈良・和歌山の山岳地帯では少ないものではない。

86. *D. bizen* Kishii, 1984

チュウゴクナカグロヒメコメツキ

音水, 1ex.(13.V, 1973)。高橋 匡(1976, 1982)。中国山地東端部では *Dalopius* 属で本種が最も多いようである。従来 *hirasanus* の名で報告された種である。

Tribe Elaterini Leach

87. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)

キバネホソコメツキ

鳥原, 15exs.(22. IV, 1980; 27. IV, 1980; 1. V, 1980; 3. V, 1980; 15. IV, 1981; 5. V, 1981; 9. V, 1981; 22. IV, 1982; 24. IV, 1982; 29. IV, 1982; 5. V, 1982; 13. V, 1982; 23. V, 1983), 藍那, 1ex.(5. V, 1969), 白川, 4exs.(24. IV, 1979, 石井正樹採; 25. IV, 1979, M.Seno 1eg.; 25. IV, 1979, 永井正身採; 23. V, 1979,

永井正身採), 三濃山, 22exs. (3. V, 1969; 7. V, 1972; 12. V, 1974; 18. V, 1974; 1. VI, 1974), 音水, 3exs. (31. V, 1970; 3. VI, 1973), 坂ノ谷, 2exs. (9. VI, 1973)。山本 (1958), 岸井 (1963), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975a, 1982), 有本 (1977), 仲田 (1978, 1982)。

88. *Shirozulus bifoveolatus* (Lewis, 1894) コガネホソコメツキ
高橋 匡 (1976, 1982), 仲田 (1982)。

89. *Vuilletus viridis viridis* (Lewis, 1894) ミドリヒメコメツキ
福知溪谷, 2exs. (3. VI, 1975, 遊摩正秀採)。山本 (1958), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975a, 1982), 有本 (1977), 仲田 (1978, 1982)。従来の記録は亜種名が明示されていないので或いは次の *crebrepunctatus* や, *peropacus*, *subopacus* などが混入している可能性が大きい。同一地域, 同時期に出現するこれらの個体群が複数の亜種に分けられている現状の分類処置は基だ疑問で, 再検討されるべき種である。

89' *V. viridis crebrepunctatus* (Nakane, 1959) オオミドリヒメコメツキ
坂ノ谷, 1ex. (9. VI, 1973)。Nakane (1959, 模式標本), 高橋 匡 (1975a)。

90. *Neotrichophorus junior junior* (Candèze, 1873) ヒゲナガコメツキ
鳥原, 3exs. (28. V, 1972; 7. VI, 1982; 14. VII, 1983), 音水, 1ex. (15. VII, 1973)。Miwa (1934), 山本 (1958), 奥谷 (1974)。

91. *N. linteatus* (Candèze, 1873) コヒゲナガコメツキ
Lewis (1894), Miwa (1934), 山本・高橋 (1962), Kishii (1966), 高橋 匡 (1976, 1982)。珍らしい種であるが, 兵庫県下からの記録は多い。

92. *N. aureopilosus yamamotoi* Nakane et Kishii, 1955 クロコナガコメツキ
Nakane et Kishii (1955, 模式標本)。丹波 Shigura 産の1雌標本で記載されて以来報告をみない。原名亜種は南西諸島に分布するが, これとの関連はうすいかも知れない。

93. *Elater (Elater) sieboldi* (Candèze, 1873)

オオナガコメツキ

Lewis (1894), 山本 (1958), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1976, 1982), 堀田 (1976, 1978a), 仲田 (1978, 1982)。

94. *E. (Parallelostethus) candezei candezei* (Lewis, 1894):

ヒメクロナガコメツキ

山本・高橋 (1962), 高橋 匡 (1975, 1982)。これまで北但地方から *E. (P.) nipponensis* (Lewis, 1894) (*nipponensis* は誤り) の種名で報告されていたものは上記種と思われる。

高橋 匡 (1975) の報告した標本は筆者がその一部を同定し、標本の一部を所有するが、これは *candezei* であった。長く実体の不明であった本種とそれまで *nipponensis* オオクロナガコメツキとされていたものの実体を明らかにしたのは、大平 (1978) による業績で、現在までの知見によると一般に *candezei* の方がより南西日本に広く分布しているようであり、筆者は近畿地方及びその周辺地からの確実な *nipponensis* にはまだ接していないので今回の報告では本県からの上記記録例を *candezei* に訂正しておく。

Subfamily MELANOTINAE Candèze クシコメツキ亜科

95. *Melanotus (Spheniscosomus) cete* Candèze, 1860

アカアシオオクシコメツキ

鳥原, 8 exs. (29. IV, 1969; 23. V, 1970; 16. V, 1971; 14. V, 1972; 8. V, 1977; 5. V, 1982), 山ノ街, 1 ex. (23. V, 1970), 三谷, 1 ex. (24. V, 1975), 鳥羽, 2 exs. (1. VI, 1975), 白山, 1 ex. (27. V, 1973), 大河内, 1 ex. (4. VI, 1977), 音水, 1 ex. (31. V, 1970), 家島, 1 ex. (26. V, 1978)。Lewis (1894), Miwa (1934), 三輪 (1935), 山本 (1958), 岸井 (1963), 辻 (1963), 高橋 匡 (1964, 1975a, 1982), 堀田 (1978b), 仲田 (1978, 1982), 高橋寿郎 (1978)。

96. *M. (S.) japonicus* Ohira, 1974

ハネナガオオクシコメツキ

福知溪谷, 1 ex. (16. VI, 1975, 遊摩正秀採)。特に珍しいものではないが、今回の記録が兵庫県からは初めてのものとなる。

97. *M. (S.) restrictus* Candèze, 1865

オオクロクシコメツキ

鳥原, 2exs. (30. V, 1971; 2. VII, 1972)。Heyden (1879, *piger* として記録),
Miwa (1934), 山本 (1958), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡
(1976, 1982), 堀田 (1978b), 仲田 (1978, 1982)。

98. *M. (Melanotus) koikei* Kishii et Ohira, 1956

ヒラタクシコメツキ

妙見山, 1ex. (30. VII, 1982), 鳥原, 3exs. (2. V, 1971; 27. VI, 1971; 1. V, 1981)。
岸井 (1963), 有本 (1977)。

99. *M. (M.) correctus correctus* Candèze, 1865

ヒラタクロクシコメツキ

三湊山, 2exs. (12. V, 1974; 18. V, 1974), 福知溪谷, 1ex. (16. VI, 1975, 遊摩正秀
採), 音水, 8exs. (11. VI, 1972; 25. VI, 1972; 24. VI, 1973), 須留ヶ峯, 1ex. (19. VI,
1975, 遊摩正秀採), 家島, 1ex. (26. V, 1978)。三輪 (1935), 山本・高橋 (1962),
岸井 (1963), 辻 (1963), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975b, 1982),
有本 (1977)。

100. *M. (M.) spernendus spernendus* Candèze, 1873

ナガチャクシコメツキ

山本・高橋 (1962), 高橋 匡 (1975a, 1982)。

101. *M. (M.) annosus* Candèze, 1865

クロツヤクシコメツキ

鳥原, 11exs. (24. V, 1970; 17. V, 1971; 16. VI, 1971; 23. V, 1971; 30. V,
1971; 28. V, 1972), 山ノ街, 1ex. (29. V, 1976)。Harold (1876), 岸井 (1963),
久松 (1974), 高橋 匡 (1975b), 有本 (1977), 高橋寿郎 (1978, 1982), 仲田
(1978, 1982)。

102. *M. (M.) legatus legatus* Candèze, 1860

クシコメツキ

鳥原, 1ex. (4. VII, 1983), 明石, 3exs. (29. VI, 1975; 12. VI, 1976), 畑, 2exs. (13.
VII, 1974), 三湊山, 1ex. (7. V, 1972)。Heyden (1879), 三輪 (1935), 山本 (1958),

岸井 (1963), 高橋 匡 (1964, 1982), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974),
久松 (1974), 仲田 (1978, 1982)。

103. *M. (M.) lewisi* Schenking, 1927

ルイスクシコメツキ

妙法寺, 1ex. (25. VII, 1979)。Lewis (1894, 模式標本, *longipennis* として記載),
山本・高橋 (1962)。

104. *M. (M.) scnilis* Candèze, 1865

クロクシコメツキ

藍那, 1ex. (24. V, 1978), 三谷, 3exs. (24. V, 1975), 鳥羽, 2exs. (1. VI, 1975)
; 白山, 2exs. (27. V, 1973), 笠形山, 2exs. (12. VI, 1975), 大河内, 5exs. (4. VI,
1977; 18. VI, 1977), 三濃山, 5exs. (7. V, 1972; 6. V, 1973; 12. V, 1974;
18. V, 1974; 8. VI, 1974), 福知溪谷, 2exs. (20. VI, 1976)。Lewis (1894),
Miwa (1934), 三輪 (1935), 山本 (1958), 岸井 (1963), 高橋 匡 (1975a,
1982), 仲田 (1978, 1982)。

105. *M. (Kensakulus) fortunei* Candèze, 1878

マルビクシコメツキ

Lewis (1894, *invectitius* として記録), Miwa, (1934, *harnandi* として記録),
山本 (1958), Kishii (1963, *invectitius* として記録), 奥谷 (1974),
高橋 匡 (1975b, 1982; *fortunei* と誤記)。

106. *M. (K.) erythropterus* Candèze, 1873

コガタクシコメツキ

鳥原, 7exs. (14. V, 1972; 5. V, 1981; 9. V, 1981; 15. V, 1981; 4. V, 1982;
17. V, 1982), 三谷, 2exs. (24. V, 1975; 8. VI, 1975), 白山, 1ex. (3. V, 1973),
大河内, 5exs. (7. V, 1977; 14. V, 1977; 31. V, 1977; 4. VI, 1977), 三濃山,
4exs. (20. V, 1973; 18. V, 1974; 1. VI, 1974), 原, 1ex. (11. V, 1979), 赤西,
2exs. (10. V, 1970), 音水, 10exs. (31. V, 1970; 11. VI, 1972; 3. VI, 1973; 13.
V, 1973; 3. VI, 1975, 遊摩正秀採), 坂ノ谷, 1ex. (9. VI, 1973)。Candèze (1873,
模式標本), Heyden (1879), 戸澤 (1936), 山本 (1958), 辻 (1963), 辻・岸田
(1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975a, 1982), 高橋寿郎 (1978), 仲田 (1978,
1982)。

107. *M. (K.) seniculus* Candèze, 1873

チャバネクシコメツキ

赤西, 1ex. (10. V, 1970)。Candèze (1873, 模式標本), Miwa (1934), 有本 (1977)。

Subfamily NEGASTRIINAE Nakane et. Kishii

ミズギワコメツキ亜科

108. *Yukoana elliptica* (Candèze, 1873)

ヘリマメコメツキ

鳥羽, 1ex. (29. IV, 1972), 音水, 1ex. (31. V, 1970)。Miwa (1927, 1934, *punctatus* として記録), 山本・高橋 (1962), 高橋 匡 (1976, 1982), 仲田 (1978, 1982)。

109. *Y. carinicornis* (Lewis, 1894)

ヘリムネマメコメツキ

川上, 1ex. (2. VII, 1977, 大平博士同定)。奥谷 (1974), 仲田 (1978, 1982)。

110. *Y. terukoe* Kishii, 1961

ホソマメコメツキ

川上, 1ex. (21. V, 1977, 大平博士同定)。

111. *Quasimus (Quasimus) japonicus* Kishii, 1959

ニホンマメコメツキ

音水, 1ex. (11. VI, 1972)。奥谷 (1974), 有本 (1977)。

112. *Q. (Q.) parvulus* Kishii, 1970

ニセチビマメコメツキ

高橋 匡 (1975b, 1982), Kishii (1976)。

113. *Q. (Q.) ovalis* (Candèze, 1873)

マルマメコメツキ

高橋 匡 (1975b, 1982)。

114. *Pronegastrius (Pronegastrius) humeralis humeralis* (Candèze, 1873)

カタモンチビコメツキ

鳥原, 2exs. (21. V, 1978)。仲田 (1978, 1982)。

115. *Yamatostris albipilis* (Candèze, 1873)

シラケチビミズギワコメツキ

本県下から従来記録はなかったが、筆者所有標本中に下記のものがあるので報告しておく。

なおKishii (1976) は本種の所属を南米に分布する *Monadicus* 属の亜属として報じたが、多くの点でこの属とは異なるので本邦で独特の分化した属とみなすのが妥当のようである。

高砂浜, 1ex. (23. IV, 1954, 石田 裕採), Tatoi-浜, 淡路島, 22exs. (18. IV, 1976, 渡辺昭彦採)。

116. *Migiwa (Migiwa) curatus curatus* (Candèze, 1873)

ミズギワコメツキ

鳥原, 1ex. (21. V, 1978)。Kishii (1976a)。

117. *M. (M.) insulsus* (Candèze, 1873)

クロミズギワコメツキ

本種の記録は兵庫県からは見出せないが、筆者の所有するものに下記のものがあるので報告しておく。

妙見山, 1ex. (6. VII, 1952, 石田 裕採), 有馬温泉, 5exs. (15. VII, 1956, 石田 裕採), 六甲~有馬, 5exs. (10. VII, 1955, 石田 裕採)。

118. *M. (M.) tutus* (Lewis, 1894)

キアツミズギワコメツキ

Kishii (1976a)。

119. *M. (M.) yotsuboshi* Kishii, 1976

ヨツボシミズギワコメツキ

Kishii (1976, 模式標本)。伊丹市内の猪名川から得られた標本が記載時用いられた。現在京都と兵庫からのみ知られている。

120. *M. (M.) cruciatus* (Candèze, 1873)

ジュウジミズギワコメツキ

Miwa (1934)。

Subfamily CARDIOPHORINAE Candèze ハナコメツキ亜科

Tribe Cardiophorini

121. *Cardiophorus pinguis* Lewis, 1894

クロハナコメツキ

妙見山, 1ex. (30. VII, 1982), 烏原, 1ex. (19. V, 1981), 藍那, 1ex. (5. V, 1969), 烏羽, 1ex. (1. VI, 1975)。山本 (1958, *vulgaris* として記録)。山本・高橋 (1962), 岸井 (1963, *subaeneus* として記録), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975b, 1982; *pinguis* 及び *subaeneus* の両者を記録)。有本 (1977), 高橋寿郎 (1978), 仲田 (1978, 1982)。山本・高橋の記録した *lewisi* は本種と思われる。

122. *Paracardiophorus pullatus* (Candèze, 1873)

コハナコメツキ

烏原, 1ex. (21. IV, 1980)。Candèze (1873, 模式標本), Miwa (1934), 三輪 (1935), 山本 (1958), 辻・岸田 (1972), 奥谷 (1974), 高橋 匡 (1975b, 1982), Kishii (1977), 仲田 (1978, 1982)。

123. *P. musculus opacus* (Lewis, 1894)

クロコハナコメツキ

明石市屏風浦, 1ex. (5. X, 1982), 城崎, 1ex. (17. V, 1970)。Kishii (1977)。

124. *P. sequens sequens* (Candèze, 1873)

アカアシコハナコメツキ

Miwa (1934), 久松 (1974)。久松は本種と共に *P. sp.* として不明種を報じているが、これは文意から判断すると *sequens* の変異と考えられる。筆者は他地方産のもので脚が黒化する *sequens* が正常のものに混じる例を屢々みている。

125. *Paradicronychus adjutor adjutor* (Candèze, 1873)

アカアシハナコメツキ

鳥原, 2exs. (5. Vl, 1980 ; 8. Vl, 1982)。Miwa (1934), 山本・高橋 (1962),
岸井 (1963), 仲田 (1978, 1982)。

126. *P. nothus nothus* (Candèze, 1865)

オオハナコメツキ

有本 (1977), 仲田 (1978, 1982)。

127. *Gambrinus niponensis* (Lewis, 1894)

ニホンカネコメツキ

有本 (1977)。

128. *Neohypdonus telluris* (Lewis, 1879)

クロツヤミズギワコメツキ

山本 (1958)。

参 考 文 献

有本久之 (1977), 能勢地方のコメツキムシ, 能勢の生物調査報告書(2), 近畿大学農学部生物
研究会: 29-35.

………… (1979), オグラカパイロコメツキ伊丹市に産す。きべりはむし, 7(1): 19.

Candèze, E. (1873), Insectes recueillis au Japan par Mr. G.

Lewis, Elatèrides. Mém. Soc. roy. Sc. Liège, 5(2): 1-33.

Harold, L. (1876), Bericht über eine Sendung Coleopteren aus

Hiogo. Abhandl. nat. Ver. Bremen, 5: 129-130.

Heyden, L. von (1879), Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr.

Rein in Japan. Deutsche ent. Zeit., 23: 348-365.

平松広吉 (1977), 和歌山県産コメツキムシ科目録 Ⅲ, 南紀生物, 19(2): 69-72.

久松定成 (1974), 本四架橋ルートの鳥々の昆虫相, 本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境
保全のための調査報告書(その2): 87.

堀田 久 (1976), 先山の昆虫相(I), Parnassius, 16: 23-24.

………… (1978a), 淡路島産昆虫類採集記録, ibid., 18: 13.

………… (1978b), 同上(II), ibid., 19: 12-13.

- 木下賢司(1982), 自宅付近の燈火で採集した昆虫あれこれ, IRATSUME, 6:77-78.
- Kishii, T. (1961), Elateridae of Is. Tsushima. Bull. Heian High Sch., 5:1-56.
- (1966), Elateridae of Kyoto and its adjacent Regions. Bioi. Lab. Heian High Sch., Kyoto:1-54.
- (1976a), New Negastrinae with some notes. Bull. Heian High Sch., 20:17-46.
- (1976b), Some new Forms of Elateridae in Japan(XI). Ibid.:47-56.
- (1977), Some new Forms of Elateridae in Japan(XII). Sci. Rep. Kyoto Pref. (Annl. Rep. priv. Schs. Kyoto Pref.), 15:49-61.
- (1978), A study on the genus Actenicerus Kiesenwetter from Japan and its adjacent area(1). Bull. Heian High Sch., 22:17-29.
- (1983), On some Elaterid-species from Japan, with the Description of two new Taxa (Coleoptera). Ibid., 27:47-64.
- 岸井 尚(1963), 高橋寿郎氏蒐集の兵庫県産叩頭虫類, Akitu, 11(1):9-13.
- (1980), 日本産シモフリコメツキ属の研究(2), Bull. Heian High Sch., 24:1-9.
- 黒佐和義(1955), 甲虫の幼虫(2), 新昆虫, 8(7):17.
- Lewis, G. (1894), On the Elateridae of Japan. Ann. Mag. nat. Hist., (6)13:26-48, 182-201, 255-266, 311-320.
- (1895), On the Lamellicorn Coleoptera of Japan, and notice of others. Ibid., (6)16:407.
- 前多 純・他三氏(1974), 岡田山の昆虫目録, 岡田山の自然, 神戸女学院:110-119.
- 的場 積・平松広吉(1973), 和歌山県産コメツキムシ科目録I, 南紀生物, 15(2):45-48.
- (1974), 同上II, ibid., 16(1):18-22.
- Miwa, Y. (1927), New and some rare species of Elateridae from the Japanese Empire. Ins. Mats., 2(2):105-114.
- (1934), The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Dept. Agr. Govt res. Inst., Formosa, 65:1-289.
- 三輪勇四郎(1935), 竹内吉蔵氏及戸澤信義氏所蔵叩頭虫の標本目録. 関西昆虫雑誌, 3(2):50-53.

- Nakane, T. & Kishii, T. (1955), Descriptions of a few new forms of the Elaterid-beetles from Japan, with notes on some others. Sci. Rep. Saikyo Univ. (Nat. liv. Sci.), 2(1), A ser. : 43-45.
- 中根猛彦・岸井 尚 (1955), 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編 (コメツキムシ科), 保育社 : 12-15.
 …… (1956), 同上, 補遺 : 20-22.
- 仲田元亮 (1978), 能勢の昆虫 I, 大阪 : 1-405.
 …… (1982), 同上, 甲虫之部, 上巻, 増補改訂版, 大阪 : 1-453.
- 西脇自然同好会昆虫班 (1965), 西脇, 多可, 八千代昆虫目録, 西脇自然同好会々報, 1(1) : 51.
- 野村 全 (1938), フタモンウバタマコメツキの本州に於ける—新産地, 昆虫界, 6 (51) : 479
 480.
- 野崎義雄 (1942), フタモンウバタマコメツキを採る。昆虫界, 10 (102) : 493.
- 奥谷禎一 (1974), 中国山脈東端の昆虫相, 東中国山地自然環境調査報告 : 206-207.
- 大平仁夫 (1965), 九州に産するコメツキムシ科の珍種(3), 北九州の昆虫, 12(1) : 1-4.
- 大平仁夫・有本久之 (1976), コメツキムシ雑記 (Ⅷ), 昆虫と自然, 11(6) : 23-25.
- Stibick, J. (1979), Classification of the Elateridae (Col.). Pacific Ins., 20 (2/3) : 145-186.
- 高橋 匡 (1964), 出石郡昆虫目録, 第1報, 兵庫県立出石高等学校科学部生物班会誌, VITA, I : 18-19.
 …… (1975a), 豊岡高等学校昆虫標本目録, 第1報, 兵庫県立豊岡高等学校生物教室 : 1-54.
 …… (1975b), 同上, 第2報 : 55-66.
 …… (1975c) 同上, 第3報 : 17.
 …… (1976), 同上, 第4報 : 8.
 …… (1978), 同上, 第5報 : 10.
 …… (1982), 但馬地方昆虫目録 (予報第7報), IRATSUME, 6 : 69-74.
- 高橋寿郎 (1978), 神崎郡大河内町川上~砥峯地区の甲虫. 大河内地点自然環境実態調査報告書, 兵庫県 : 58-59.
 …… (1981), 県下2種のコメツキムシの分布. 兵庫県甲虫相資料, 82, きべりはむし, 9(1) : 22-23.
- 登日邦明 (1983), 煙島の動植物目録, 煙島の自然 : 113-119.
- 戸澤信義 (1936), 芝川家所蔵昆虫標本目録, 柴木遺稿, 別巻 : 1~333.
- 辻 啓介 (1963), 但馬扇ノ山甲虫目録(1), 兵庫農科大学生物研究部々誌, 3 : 30-31.

辻 啓介・岸田剛二(1972), 但馬扇ノ山の甲虫目録, 兵庫県自然保護協会調査資料, 第1集:
20-48.

上田尚志(1981), 家島群島の昆虫(2), きべりはむし, 9(1): 13.

山本義丸(1958), 兵庫県氷上郡昆虫目録. 氷上の自然, 第3集, Natura 特別号: 84-85.

山本義丸・高橋 匡(1962), 氷上郡昆虫目録追補(第1集): 7-8.

訂正 前回報告分の№33と34の和名が入れ違いですので訂正します。

兵庫県ゼフィルス採卵紀行(2)

勝 屋 潤

3. 朝来郡朝来町～生野町

(1) 1982年10月23日

福崎インタより312号線を北上すると間もなく朝来郡に入る。生野町, 朝来町, 和田山町と好採集地が多い。

市川から円山川に変われば朝来町になる。大きな湖池も多く, 銀山湖, 多々良木湖, 神子畑池等の周りにはブナ, マンサク, ヤマザクラ, ウラジロガシコナラ等ゼフ採卵には絶好の場所である。生野町をうろうろすると一番目につくのはやはりヤマザクラで少ないながらもメスアカはすぐ見つかる。本日の目的はフジミドリである。

銀山湖周辺には沢が多くありブナが多い。ブナの大木は下の方にひこ生えがなく, とても登れそうもない。しかし, ひこ生えを探索に見ていけば一年枝の分岐部より大きな卵が見つかった。実際, フジは大木に登ったとしても上の方に産付されているのは稀で, ほとんどはひこ生えである。従って, 苦勞してわざわざ登ることはない。

しかしやはり道沿の木には少なく, 溪流に沿って斜面に生えるブナの小木が一番効率がよい。京都の産地では尾根のブナ林に多く溪流沿は少なかったが, 本地域では逆のようである。

寄生は比較的少なく, 卵の管理も容易なので採卵した数のほとんどは成虫になる。

斜面はかなりきつく下に人がいないことを確かめてから歩かないと石や岩を落とす危険がある。ブナは背垣町方面に向って点々とあるのでよいポイントを捜せばいい。とは云っても限られた時間内では仲々うまくいかない。フジは通常1卵ずつ, 時々2卵のものがあるが, 恐らく異なる母蝶によって産付されたものと思われる。中には1m程の幼木にも産みつけられている。

午後からはさらに奥に進み川巾1m程度の沢を逆登る。キンキマメザクラがあり、必ずといっていい程メスアカがついている。人為的に植えられたヤマザクラにもついていた。10月はまだサクラ、ブナ共に葉はついており捜しにくいので11月に入ってからのの方がよいようである。しかし11月下旬には雪が降るので採卵期としては1ヶ月程しかないのである。

本日の成果

フジミドリ	36卵(ブナ)
メスアカミドリ	19卵(ヤマザクラ, キンキマメザクラ)

(2) 1983年3月20日

前回とは違う谷を選んで採卵を試みる。

やはり3月は暖かく、晴れていれば汗ばむくらいである。しかし山頂の日陰に入ればまだ雪が残っている。この谷はブナは所々にあるが、フジは非常に少ない。ブナを捜して谷をヤブこぎしているとマンサクの巨木があり上の方で黄色い花をつけている。

試しにこれを登って休眠芽を調べるが、苦勞した割にはウラクロの卵は少ない。

だいたいウラクロという奴は産地に夏いけば恐い程の数が夕刻飛んでいるのに卵を捜せばマンサクが多いことにもよるが成果が上がらない事が多い。やはり幼虫採集が一番効率がよい。マンサクの大木はだめなので幼木を見る。

ゼフィルスの多くは、(アイノ, ヒサマツヤクロミドリは除けば), 大木よりも幼木やひこ生えに好んで産卵するようでありウラクロはこの傾向がかなり強い。

幼木からは次々と卵が見つかった。ある程度採れたので、朝来町に向う。途中、カエデの木が多く帰りにミスジの幼虫を採ろうと決意する。そう決意するともう採卵する気がなくなりミスジの採卵を行なう。11月ならまだ葉が多く残っているが、3月は幼虫のついてある葉とあとはクモの巣にひっかかった葉が残っている程度で非常に楽であった。

本日の成果

フジミドリ	3卵(ブナ)
メスアカミドリ	11卵(ヤマザクラ, キンキマメザクラ)
ウラクロ	32卵(マンサク)
(ミスジ	11幼虫(カエデ))

4. 三田市, 宝塚市～川辺郡猪名川町, 川西市

(1) 1981年11月22日

A.M6:00出発。新神戸トンネルを抜け有馬街道を三田に向う。まず三田市上野でハンノキを調べる。ついていない。次に千刈に向う。途中, 本郷に立寄り, ハンノキを調べる。大木には目もくれず幼木を捜す。本日の第1号の卵はここで得られたミドリシジミである。幼木の為, 枝が細く卵塊は見当らない。1~2卵ずつである。ハンノキ林の群落は効率が悪く, 少し離れた所の低木がよいようで卵は小枝の分岐部や休眠芽の基部に集中的に産まれている。この道を能勢に向う途中宝塚市を通過する。千刈水源池の周りはいボタやトネリコが多い。寄道をしてここで少しウラキンを捜すことにした。トリネコは多いがウラキンの採卵はよほど恵まれないと多くて成果少なしである。

大木の根元のしわやさけ目には卵塊が見つかるが去年の孵化卵であったり, 寄生卵が多く, この年は他の産地でもそうであったが, だめなようである。

ウラキンは大抵卵塊を作るので寄生されれば全滅となる。川に向って斜めに伸びた木では幹の上側(すなわち空に向けた側)に2~3卵ずつ産まれていた。下側の方がよいように思われるが, なぜ上側なのか不思議であったが, こればかりはウラキンに聞いてみないとわからない。寄道に時間を食ってしまい猪名川町についた時はPM3:00を過ぎていた。

今から阿古谷に行くとすぐ日没引分けになるので川西市笹部に行く。

笹部ではイボタを中心にナラガシワやコナラをみることにした。イボタは多いがウラゴマはなく, 本日はウラキン共々, 非常に効率の悪い採卵になった。

50本ぐらい見てやっと1卵塊(9卵)を見つける。帰りに際ナラガシワの大木をみる。ダイセン, ウラジロ, アカ, ミズイロで, 予想通りヒロオビはいない。

本日の成果

ミドリシジミ	42卵	(ハンノキ)
ウラキン	14卵	(コバノトネリコ)
ウラゴマダラ	9卵	(イボタ)
ウラジロミドリ	4卵	(ナラガシワ)
ダイセン	18卵	(ナラガシワ)
ミズイロオナガ	4卵	(ナラガシワ, コナラ)
アカ	2卵	(ナラガシワ)

(2) 1983年1月26日

京都から友人が2人泊りに来てヒロオビを採りたいということで上阿古谷～三草山に行く事に

した。この日は前日から大雪で三田から能勢に向う県道の日陰は一面の雪で、車が時々スリップして非常に危ない。ゆっくりと進むので、この道にトネリコの多いのを再発見したような気分になった。三草山。阪神地方でここほど人の訪れる山はない。一昔前は上阿古谷でヒロオビの飛翔に出くわした。しかし今はこらのナラガシワの大木はすべて切られ、アスファルトの道が三草山の頂上附近まで伸びている。伐採と採卵者による無茶苦茶な傷跡が見るに耐えない。それでもこのヒロオビは絶滅する事なく生き長らえている。本来ヒロオビの好みそうなナラガシワの大木はもはやなく中木の上で細々と発生を繰り返している。

本日はまず上阿古谷でのダイセンの採卵を試みた。ヒロオビに比べダイセンの方はナラガシワ、コナラ、クヌギ、アベマキの4種類につくので減るところか逆に増えているような気がする。1ヶ月程前に50卵ほど採ったが、この日もダイセンは豊産で京都の友人には大変喜んでもらった。ダイセンは休眠芽についているが、頂芽ではなく、ひこ生えが効率よく、多い時は1芽に9卵というのもあった。

ダイセンをやっているとミズイロやアカが副産物でとれる。ウラジロの方はナラガシワの休眠芽や小枝、小枝の分岐部に多くは1~2卵が見られ、最も多いのは大木の幹に数十卵の卵塊が見つかるが、例によって例のごとくこういうのは必ずといっていい程大部分が寄生をうけている。副産物はこのくらいにしてヒロオビの採卵の為、三草山へ向う。

年々状況がひどくなっているようである。ヒロオビはナラガシワに登らねばならないので、木に登れない人からはのがれて生き伸びている。もはやここでは数十卵の卵塊などみられず、ほとんど1~2卵ずつであった。

昔から、この三草山に通った人々にとっては、現在のこの姿をみると涙が出る思いであろう。

本日の成果

ダイセン	85卵 (クヌギ, コナラ, アベマキ, ナラガシワ)
ミズイロ	19卵 (ナラガシワ, クヌギ, コナラ)
アカ	4卵 (クヌギ, アベマキ)
ウラナミアカ	2卵 (ナラガシワ, クヌギ)
オオミドリ	3卵 (ナラガシワ)
ウラジロミドリ	75卵 (ナラガシワ)
ヒロオビミドリ	61卵 (ナラガシワ)

(1983-11-23記)

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾（続報その3）

新 家 勝

I はじめに

今回は1983年中の採集品について報告させていただく。今回もまた、採集場所について「宝塚市」を省略して記載する。

II 採集結果

1. Sphingidae スズメガ科

- (1) *Marumba gaschkewitschii echephron* Boisduval モモスズメ
1983. 5. 31 武庫川町
- (2) *Callambulyx tatarinovii* Bremer et Grey ウンモンズズメ
1983. 6. 5 武庫川町
- (3) *Macroglossum stellatarum* Linné ホシホウジャク
1983. 8. 4 武庫川町

2. Arctidae ヒトリガ科

- (1) *Hyphantria cunea* Drury アメリカシロヒトリ
1983. 4. 28 武庫川町

3. Noctuidae ヤガ科

- (1) *Heliothis virescens adauca* Butler ツメクサガ
1983. 7. 4 南口2丁目
- (2) *Amathes stupenda* Butler マエキヤガ
1983. 10. 28 南口2丁目
- (3) *Mamestra illoba* Butler シロンタヨトウ
1983. 5. 8 南口2丁目
- (4) *Leucania consanguis* Guenée マメチャイロキョトウ
1983. 8. 24 武庫川町
- (5) *Leucania flauostigma singularis* Butler マダラキョトウ
1983. 11. 11 武庫川町
- (6) *Amphira tripartita* Butler シロスジカラスヨトウ
1983. 4. 27 南口2丁目

- (7) *Perinaenia accipiter lignosa* Butler モクカラスヨトウ
1983. 4. 27 南口2丁目
- (8) *Cosmia achatina* Butler シマキノガ
1983. 7. 11 南口2丁目
- (9) *Athetis cinerascens* Motschulsky クロテンヨトウ
1983. 4. 25 南口2丁目
- (10) *Clethrophora distincta* Leech ミドリリング
1983. 7. 24 南口2丁目
- (11) *Stenoloba jankowskii* Oberthür シロスジコヤガ
1983. 7. 11 南口2丁目
- (12) *Plusia nigrisigna* Walker タマナギンウワバ
1983. 10. 28 南口2丁目
- (13) *Mocis undata* Fabricius オオウンモンクチバ
1983. 10. 9 武庫川町
- (14) *Salia salicalis cinerea* Butler キンスジアツバ
1983. 5. 22 武庫川町
4. *Thyatridae* トガリバ科
- (1) *Epipsesthis ornata* Leech ムラサキトガリバ
1983. 11. 5 武庫川町
5. *Drepanidae* カギバガ科
- (1) *Macrauzata fenestrarir* Moore スカシカギバ
1983. 11. 11 南口2丁目
6. *Geometridae* シャクガ科
- (1) *Geometra glaucaria* Ménétériés コシロオビアオジャク
1983. 6. 15 武庫川町
- (2) *Comostla rubripunctata* Warren アカホシヒメアオジャク
1983. 11. 5 武庫川町
- (3) *Xanthorhœ hortensiararia* Graeser フタトビスジナミジャク
1983. 4. 26 南口2丁目
- (4) *Callygris compositata* Guenie ナミガタシロナミジャク
1983. 6. 15 武庫川町

7. Pyralididae メイガ科

- (1) *Lamoria ruficostella* Rangonot アカフツブリガ
1983. 7. 19 武庫川町
- (2) *Nacoleia commixta* Butler シロテンキノメイガ
1983. 5. 22 武庫川町
- (3) *Orthaga euadrusalis* Walker クロモンフトメイガ
1981. 7. 2 南口2丁目

Ⅲ ま と め

1983年に新たに採集したものは、スズメガ科3種、ヒトリガ科1種、ヤガ科14種、トガリバ科1種、カギバ科1種、ジャクガ科4種、メイガ科2種の計26種であった。これをこれまでの1978～1980年の104種、1981年の69種、1982年の35種に比べるとかなり少ない。しかしながら、モモスズメやウンモンズズメのようにそれぞれ付近のサクラやアキニレで幼虫がよく発見できる普通種でありながら、今年やっと採集できたものもあり、今後ともこのような普通種を含めて多くのものが採集できると思われる。なお、クロモンフトメイガは1981年の採集品であるが、メイガ科であることに気が付かなかったため今年まで同定できなかった。また、殺虫剤として錯酸エチルを使用すると蛾では脂肪の滲出しが著しいため、アンモニア水を使用していたところ、ミドリリングは、あの美しい緑色がたちまちにして日焼けしたような黄色味を帯びた緑色に変わってしまった。

参 考 文 献

北隆館，日本昆虫図鑑。

北隆館，原色昆虫大図鑑Ⅰ。

保育社，原色日本蛾類図鑑(上)，(下)。

厚生閣，分類原色日本昆虫図鑑7，12。

兵庫県下で得た甲虫三種の記録

伊藤 武

筆者は、昨年から今年にかけて採集記録の少ないと思われる甲虫若干を県内で採集しているので報告しておきたい。

1. *Atimia okayamensis* Hayashi ケブカマルクビカミキリ

1ex. 15 IV 1984. 神戸市北区藍名

筆者採集 嶋村健児保管

本種は、現在まで三木 進 (1979)^{*1} による三木市別所町における採集例と小田中 健 (1984)^{*2} による宝塚市亮布からの報告があるのみであったが、筆者は、同地にてネズミサシのピーティングにより採集した。

2. *Nalanda rutilicollis* (Obenberger, 1914)

ムネアカチビナガボソタママシ

1ex. 10 VII 1983. 神戸市北区山田町谷寺ロバス停付近 筆者採集

本種は、最近、高橋 (1983)^{*3} により神戸市内から記録されたが、筆者は、同地にてアカメガシワの葉のスウィーピングにより得た。

3. *Endelus* sp. アカガネエグリタママシ

150exs. 1,2 X 1983 淡路島三熊山 筆者採集

本種は、石原・久松ら (1974)^{*4} により同地三熊山から1頭、*Endelus japonicus* Obenbergerとして記録されている。筆者は、本種を再確認するため、同地を訪れたが、その際、三熊山城趾の石垣にびっしり生えたヒトツバ(うらぼし科)の葉上に多数見出すことができたので、観察と合わせて記録しておきたい。

参考文献

- *1. 三木 進 (1979) ELYTRA 7(1) P16.
- *2. 小田中健 (1984) きべりはむし Vol. 12 No.1 P. 30.
- *3. 高橋寿郎 (1984) きべりはむし Vol. 11 No.2 P. 64.
- *4. 石原・久松他 (1974)

本四架橋ルート of 島々の昆虫相. P. 86.

神戸産ベニボタル 三種について

(兵庫県甲虫相資料. 146)

高橋 寿郎

ムネアカテングベニボタル *Konoplatycis otome* (Kôno, 1932) が春先に多いことを本誌 Vol. 11, No. 2 で報告させて頂いたが、1984年も3月22日舞子に出掛けた。快晴ではあったが本年はことのほか寒い冬であり当日の気温も低かった関係から全く姿を見ることが出来なかった。

1ヶ月程たった4月14日烏原貯水池畔の遊歩道を散策していた所丁度20メートル程の距離、鉄柱を立て、木片による土留めをしてある所があった。板を横に積み重ねたような格好で板の最下部に当る所は落葉が可成りつもっている状態であった。この落葉から少々上の位置の板に本種がとまっていた。14日には2♂, 2♀, 15日5♂, 3♀と採集出来た。16日は生憎と雨で行くことが出来ず17日は今にも雨が降りそうな天候であったが1♂を採集した。但しこの日は午後快晴になり気温がグングンあがって神戸で午後3時22.6度と5月中旬の気温になった。

18日も朝はいまにも降り出しそうな様子であったが気温の方は可成り高かった。気温が高かった関係からか数も多く見られた。割合動作も活潑に見えし、飛翔しているのも見られた。18日は10♂, 9♀が採集出来2組の交尾状態のものが見られた。交尾状態のものは15日にも見ている。19日は低気圧の通過で可成りの雨がだったので山に行くことは出来なかった。20日は曇りになったが気温は割合低く寒いような状態であった。1♀を採集。21日も気温が低く曇り空でとうとう1匹も見ることが出来なかった。22日も曇り空で気温は21日よりやや高いかなと思われ程度であった。落葉の上にいる1♂を採集。23日は快晴となったが気温が余り上らず遂に見られなかった。24日も全然見なかったが25日には1♀採集。26日は割合気温があがって来て土留めの今迄いた所でない反対の端近くで落葉がやゝある所で2♂, 2♀を採集。1組は交尾状態で運動は割合活潑であった。27日気温は高いが遂に見ることが出来なかった。

本種は今迄この烏原周辺での採集経験は無かったがこの様に多くいるのはタイミングよく出会わなかったからであろう。今一箇所土留めがあるが落葉が無く一匹も見ることが出来なかった。

大体成虫は2週間位見ることが出来、その間に交尾して産卵をするのではないかと思われる。落葉は可成りつもっているのけて地面まで探して見たが良くわからなかった。

動作は全般に大変スローで気温の高い日に飛翔しているのを見たが活潑とは云い難い。成虫で越冬しているのかどうか今一つ良くわからない。河野広道博士が種名に“otome”と名付けられたのは勿論“乙女”のことと思われる。実に美しいベニボタルで“花羞じらう乙女”の表現はピッタリと思われる。

それから1ヶ月程が経過した。6月5日になって上記と同じ場所に行く機会があったが、こんど

は全く同じ場所にてミスジヒシベニボタル *Benibotarus spinicoxis* (Kiesenwetter, 1874) 2♂, 2♀を採集した。その後用事とか雨が降ったりして調べに行くことが出来なかったが11日には1♂, 2♀, 12日4♂, 2♀(1組は交尾中。1♂は上翅がほとんど表面からは両肩部に残っているのが見られ、その先端は腹部の方につゝみ込んだようになった奇型だった)。14日には2♂と採集出来この種がこの時期ムネアカテングベニボタルと全く同じ様な出現の状況を呈していた。たゞ色彩がムネアカテングベニボタルに比し渋味なやゝ黒味がかかった赤色であるから印象としては強烈ではない。ところが6月14日にはミスジヒシベニボタルに混じてネアカヒシベニボタル *Dictyoptera speciosa* Ohbayashi, 1954が1♂, 3♀いた。こちらは飛翔して元気がよいようであり♂は翅端が奇型で短縮したものであった。この場所は道路沿の場所であるが陽が直接照り込むことは少く風通しの良い場所で(貯水池に近く適当の湿度がある)、前に説明したように土留めが板でしてあり土が一面ではくずれ落ち落葉がたまっている。道路側も下の部分は落葉が厚くたまっている。遊歩道であるから車は入れないし人通りもそれ程多くない(午前中だけしか開放されない貯水池周遊路)環境である。この様な状況下で各種ベニボタルが棲息して次々と季節毎に違った種があらわれ楽しませてくれるのだろうか。またこの土留めの板は一部腐り始めているが、この木片上では色々の甲虫たちが歩いているのに出会う。

イカリモンテントウダマシが来ていた。ワシバナヒメキクイゾウムシ, クロミジウムシダマシは多く見られるし、ベニモンカツオブシムシも割合いたし、デオキノコムシの1種とかフタモンツヤゴミムシダマシも来ていた。日本産で該当種が見当たらない様に思われるホソエンマムシの1種も来ていた。6月16日にはミスジヒシベニボタルは見る事が出来なかったかわりにカタアカホタルモドキ(この種はこの地では側溝の近くでちょこちょこお目にかゝる) 2exs. とオオマドボタル 1ex. がいた。さらに落葉上にネアカヒシベニボタルが6♂, 6♀がじーっとしている。この種は大林一夫氏が福岡県Tashiro産1♀, 愛知県Mt. Dando産♂をタイプに記載された種である(Mushi, Vol. 26, Pars. 6, P.19-20, 1954)。中根博士はその名著“Fauna Japonica: Lycidae, 1969”の中で美しい原色図で詳しい記載されると共に西宮産の記録をされている。本種の県下産の記録は必ずしも多くないが(本種の県下での記録は川西市笹部, 相生市三湊山, 養父郡氷の山と西宮市。烏原でも既に採集していた)。この様な状況で多くいることを知り得て喜んでいる。またミスジヒシベニボタルの方も県下では宍粟郡音水で採集したのと養父郡氷の山の記録がある位で可成り目につかない種のようなのである(こちらはKiesenwetterが“Japonia”を産地にEros属で記載された種である。Berliner Ent. Zeitschr. 18:254-255, 1874. 中根博士によると全国的に広く分布している種のようなのである)。

6月17日は終日雨だった。梅雨とは云え結構雨量も多く憂鬱な一日だった。18日は雨も止んで午前中は曇っていて道に水溜りが出来樹木も草花も水を多くふくんで余り状況が良くないと思

つゝ出掛けた。ところが雨がりのおかげか土留めの周辺にはこのグループのものがいた。ミスジヒシベニボタルの1♂が落葉上にひっそりと、カタアカホタルモドキ 1ex., オオマドボタル 6exs. がそばの草上にいたし、クシヒゲベニボタル1♂もいた。ネアカヒシベニボタルは13♂, 10♀がいた。1組は交尾していた。全般に葉上, 落葉上にいたし飛翔していたのも数匹いた。上翅の短縮奇型のものが1♂, 2♀いたし, 1♀は上翅色彩が全般に黒味がかって僅かに先端部合線ぞいに赤味を有しているだけであった。6月19, 20日と再び雨, 雨で身動きが出来なかった。21日は曇空, 時々晴間が見られたので出掛けて見た。結構まだたくさん出ていた。9♂, 6♀採集。交尾中のものを2組見た。他のホタル類は少々離れた地点でオオマドボタル 2exs. とベニボタル1♀を採集。

その後若干用事があつたり体調をくずしたり, 雨等々でその場所への訪問の機会に間があいて6月28日久し振りに訪れた。雨で崖くずれとか道路が泥濘化している。ほとんどベニボタル類の姿を見なかった。わずかに1♂のネアカヒシベニボタルとオオマドボタル2exs., クロハナボタル1♂を採集しただけである。

この様にして限られた場所でもその状況がわかると野外ではなかなか得られないものが次から次へと多数現れる。採集, 調査のポイント探しの重要性を痛感させられる。

それ以後の同地点での状況は —

6月30日ネアカヒシベニボタル1♂, 1♀, オバボタル3exs., クロマドボタル 1ex., ベニボタル 1ex., クシヒゲベニボタル1♀を採集。7月1日はネアカヒシベニボタルは全く見なかったが久し振りにミスジヒシベニボタル1♂を見た。7月2日ネアカヒシベニボタル1♂, 1♀が採集出来た。(以上全部の調査時間帯は午前8時30分から9時30分間の1時間前後である)。

筆者が1964年に県下のベニボタルをまとめた時には18種が記録出来ただけであったが現在手許に集っている資料を見ると県下産ベニボタルは36種もある。そろそろ記録の発表をしなくてはならない様である。

(Aug. 1984)

宝塚市内におけるノコギリカメムシの採集記録

新 家 勝

ノコギリカメムシ *Megymenum gracilicorne* Dallsの分布については, 本誌9巻第1号に紹介されているが, 県下の産は余り報告されていないようである。筆者は宝塚市内で本種を採集しているので報告させていただく。

採集年月日 V. 26. 1984

採集場所 宝塚市切畑検見

採集時の状況 採集場所は, 宝塚市北部の田園地帯で, ナンキンノの苗の地際にいたものを採集した。

神戸ポートアイランド南公園のアオドウガネ

(兵庫県甲虫相資料・147)

高橋 寿郎

前号で報告させて頂いた神戸ポートアイランド南公園のアオドウガネを調べるべく本年(1984)梅雨明け宣言後の7月18日(水)南公園に行って見た。学校も夏休み前とて公園はほど掃除が行きとどいて気持が良かった。公園に着いたのは午前7時20分、公園を一廻りして回って見たが太陽が照らずにやゝ涼しい状況であった。潮風も肌に爽快であった。鳥に食べられたようなアオドウガネが2~3匹道路に転っていた。ヤマモモの樹には“薬剤を散布していますので実を食べないで下さい”と云う札があちらこちらにぶら下げられている。とに角此の公園はヤマモモの樹は非常に多くあり道路に面した所から眺めたのではアオドウガネは見られなく食痕のようなものも眼につかなかった。可成り見て回って、ある地点で葉上に一匹のアオドウガネのいるのが見えた。道路からやゝ中に入った所であり持って行った杖で念のためヤマモモの枝を叩いて見るとバラバラと4~5匹のアオドウガネが落下して来た。やはりいるのである。道路に面した所は薬剤の散布がきいているのか叩いても落ちて来ないが一寸中に入った所で叩くと大体一撃で3~5匹は落下して来る。落下したものは案早く芝生の中にモグリ込む。ゆっくりしていると見えなくなる個体もいる。やはりヤマモモの樹には相当きていることがわかる。たゞ葉などの食べた跡のようなものは余り眼につかない。ヤマモモの実も割合あったが実に来ていると云うわけでもなさそうであった。これ位いるのであるからヤマモモには可成りの被害を与えていると思うのだが短時間眺めただけではその状況はわからなかった。それと一箇所アジサイの花壇が割合広くあり、シーズン終り近くで花の数もそれ程多く無かったが、このアジサイの花とか葉上にビックリする程アオドウガネがいた。葉は確に食害されているのがわかる。葉上には特有の茶黒色の糞が多くついているし、緑茶色の美しく光ったアオドウガネが全くいやになる位見ることが出来た。アジサイを食害していることは間違いが無い(ヤマモモ、アジサイの花も葉もドウガネが食害することは報告されている。湯浅、遠藤、1938)。ハギはあるがまだ時期が早いのでアオドウガネは全然来ていなかった。余り採集しても一応42♂、30♀をもって帰った。いづれもアオドウガネである。ヤマトアオドウガネは今回の調査でも得られなかった(採集は約1時間の間に眼についたものゝ内殺虫管1本に入る程度しか採集していない。これから推測するに相当数の本種がいたと思われる)。兎に角公園管理は大変だと云うことは良くわかるが造った以上はしっかり管理してほしい。害虫たちは大発生する恐れが充分うかゞえる。余程キメ細い対策をたてゝ実施しないと色々問題が発生しそうである。

尚蜂谷幸雄氏から須磨浦公園の駐車場の蛍光灯にアオドウガネが多く来ていることを教えて頂い

た(同時に同所で採集された1♀の御恵与に預った, 27, VII 1984)。早速8月5日同所に早朝(と云っても午前6時40分)行って見た。たゞ此の時間帯では遅いのか数匹いる程度で可成り古くなった不完全死体がいづらか見られた。夜間に来ればもっと多く飛来しているのかもしれない。公園内も一通り歩いて見たが死体は割合あったが生きたのはほとんど見られなかった。一応4♂, 4♀を採集。この地での最盛期はもう少々前なのかも知れない。この場所は海のすぐそばである。この地から西の方垂水, 舞子, 明石公園と本種は分布している。いづれも海岸線に非常に近い地点ばかりである(本年舞子墓地の側溝で8月9日1♂, 1♀の完全死体を拾う)。

ところで鳥原貯水池畔では従来からほとんど本種が採集出来ない。本年も1♀(30-VII-1984), 1♂(7-VIII-1984)が採集出来ているだけである(いづれもドウガネと一緒にノブドウに来ていたものである。ドウガネの方は大変多い)。これ位しげく調査に行っているのだからいとすればもっと採集出来そうなものである。食草の関係からなのか, 良くわからない。新家 勝氏は御自身宝塚大橋で採集された1♂(5-IX-1979)を本年見せて下さってこの時期宝塚大橋の電燈に多く飛来することを御教え下さった(同時に宝塚市の市街地には多いが山間部には少いようだとのべておられ, 市内鳥ヶ脇で撮られた本種のカラー写真を送って下さった。28-IX-1983)。本年8月13日には宝塚市清荒神の境内にいたと云って元気な1♂を紙に包んで愚妻が持って帰ってくれた。このあたりには割合いそうである。本種は海岸線ぞいに多くいることは間違いないが海岸線から離れてどのあたりまでどの様に分布しているのかの点ではまだまだ調査を続けて見ないといけない。

(Sep. 1984)

ソボリンゴカミキリの六甲山系における採集例

芦田 久

ソボリンゴカミキリ *Oberea sobosana* Ohbayashi は兵庫県においては中央部の篠山町などから記録があるが, 六甲山系からは未記録のようである。筆者は六甲山系の東端にあたる西宮市角石町で採集された本種を所有しているので記録しておく。

1ex, 23. VI. 1980, 西宮市角石町甲陽学院高校構内, 佐藤 学 採集

採集された場所は, 標高約150mで, 樹相はアカマツ, クスギ, ヤシヤブシなどを中心としており, 林床にはヤマツツジが自生している。採集個体はこの林床を飛翔中であつたとのことである。

また本種はツツジ類を食樹としており, 庭木などのツツジについて移入されるケースが多いと言

われているが、当地においては自生しているヤマツツジを食している可能性が高い。ただし約2年にわたる調査で唯一頭しか得られなかったことなど、問題も多く含んでおり、追加記録、生態説明が望まれる。末筆ながら、同定していただいた大平廣士氏、並びに標本を快く恵与していただいた佐藤 学氏にお礼申し上げる。

神戸市立森林植物園展示館へ蝶標本寄贈

高 橋 寿 郎

既に御承知の通り神戸市立森林植物園内に展示館が完成1984年5月27日に開館一般に公開されましたが、これを機に“世界の蝶”と題して430種、132亜種、1210頭の蝶標本を寄贈させて頂きました（他に蛾8種、12頭、1箱—大型美麗種。一般昆虫40種、90頭、2箱）。ドイツ箱大53箱で蝶の内アゲハチョウ科が最も多く、240種、101亜種、815頭がふくまれています。之等の標本は逐次一般に公開される予定になっております。

(Sep. 1984)

神戸市立森林植物園展示館 及び 神戸市立住之園公民館にて甲虫標本展示

高 橋 寿 郎

5月26日に竣工した森林植物園展示館で参考出品として“世界の甲虫”と題して大きいもの、美しいものを中心に7月1日までドイツ箱8箱にタマムシ38種 84exs., カミキリムシ26種, 51exs., クワガタムシ9種, 38exs., コガネムシ（主としてカブト, ハナムグリ, テナガコガネ）21種, 68 exs. を入れて展示。

また神戸市立住之江公民館からの依頼もありこちらは“コガネムシの仲間”と題して食莖類コガネ149種, 842exs., 食葉類コガネ 140種, 634exs. をドイツ箱大12箱にて展示共に簡単な解説をつけた（6月28日～7月1日）。

余談ではあるが本年6～8月にかけて上記以外に神戸市内4ヶ所で昆虫展示会が開設された。また8月12～15日芦屋大丸にて“世界の昆虫展”が開催され話題のヤンバルテナガコガネの生きたものも出品されていた。

(Sep. 1984)

会費納入について お願い

1985年度会費 2,000円

現在の会員数・会費では会誌1号分の印刷費が赤字となっています。単純に会費値上げをお願いしたらとも思うのですが、そんなものでもないかと悩んでいます。6年間そのまゝの会費ですから値上げをお願いしたいとは思いますが原稿難の問題もあり頭が痛いです。

とにかく来年はそのままやって見ます。出費多端の折、恐縮に存じますが会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上お願い申し上げます。

編 集 後 記

- 今年は暑い夏でした。米は豊作だそうです。冬は寒く、夏は暑いというのが自然の姿なのでしょう。夏が暑いと云うことは景気の方もいゝのだとも聞きます。それにしても暑い夏でした。皆様お変わり御座いませんでしたか。
- 会員 西村 登氏は7月「ヒゲナガカワトビケラの生態学的研究」の論文で京都大学より理学博士号授与されました。日頃の地味な研鑽の賜物です。おめでとうございます。
- 7月24日県民会館文化サロンにて「自然系博物館設立に関する座談会」の招待を受けて出席致しました。当日は小林桂助、菊池典男、藤本義昭、矢野悟道氏の他に私と県側は坂井知事、井野教育長、西沢社会教育・文化財課長他県職員数名。座談会は正味2時間の間でした。当面、坂口コレクションを中心とした自然系博物館建設の構想が可成り前進しつつあることがうかがえました。大変うれしいことです。
- 今年は神戸市内と加東郡下の2ヶ所で環境調査のお手伝いをさせて頂きました。お蔭さまで若干の新知見も得ることが出来ました。
- 第13巻、第1号は1985年5月出版を予定しています。目下手持ち原稿はほとんどありません。御投稿を切にお願い致します。
また会費の方も宜敷く。

(T)

きべりはむし 第12巻第2号

昭和59年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：榊文尚堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
